宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2020

購読料（税込）

| | |
|---|---|
| 1部 | 500円 |
| 半年 | 3,000円（〒共） |
| 年間 | 6,000円（〒共） |

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

# 両陛下が追悼と平和の祈り

## 終戦75年、全国戦没者追悼式

### 日本武道館

終戦後75年の8月15日、東京都千代田区の日本武道館で全国戦没者追悼式が開催された。当日は、天皇陛下両陛下が御臨席され、安倍晋三内閣総理大臣、衆・参議院議長、最高裁判所長官、各国務大臣、各都道府県代表、関係団体の代表ら約540人が参列し、約310万人を数える全戦没者に追悼の誠を捧げた。

午前11時51分、閉会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎える。国歌斉唱に続き、安倍晋三内閣総理大臣が式辞。

「祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦陣に散った方々。終戦後、遠い異郷の地にあって、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ各都市での爆撃、沖縄における地上戦などで、無残にも犠牲となられた方々。今、すべての御霊の御前にあって、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げます。

今日、私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆様の尊い犠牲の上に築かれたものであることを、終戦から75年を迎えた今も、私たちは決して忘れません。改めて、衷心より、敬意と感謝の念を捧げます。我が国は、積極的平和主義の旗の下、国際社会と手を携えながら、世界が直面している様々な課題の解決に、これまで以上に役割を果たす決意です。現下の新型コロナウイルス感染症を乗り越え、今を生きる世代、明日を生きる世代のために、この国の未来を切り拓いてまいります」

両陛下は標柱の前に進み深く一礼され、正午の時報に合わせ黙祷を捧げられた。両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。

天皇陛下がお言葉を述べられた。

「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦において、かけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。

終戦以来75年、人々のたゆみない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられましたが、多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。

私たちは今、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、新たな苦難に直面していますが、私たち皆が手を共に携えて、この困難な状況を乗り越え、今後とも、人々の幸せと平和を希求し続けていくことを心から願います。

ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

大島理森衆議院議長、山東昭子参議院議長、大谷直人最高裁判所長官の追悼の辞の後、昭和20年6月にフィリピン・ルソン島で戦死した、杉山甚作陸軍伍長の子・杉山英夫氏が遺族代表として追悼の辞を述べた。

「75年前、8月15日は雲一つない快晴の暑い日でした。諸霊は我が身と最愛の家族を顧みず、ひたすら祖国の安泰を願い、健康な命をお国の為に捧げられました。懐かしい故郷の山、川を思い、愛しい妻子、優しい家族を夢見たことでしょうか。諸霊の御前に額づき、悲しみと痛恨の情を禁じえません。遺族は、最愛の家族を失った悲しみに耐え、一心不乱に助け合って懸命に生きて参りました。今日の安定な生活を取り戻すことができましたのは、人々の温かい思いやりと諸霊の御加護のおかげであると感謝申し上げます。平和な生活は諸霊の尊い犠牲の上に築かれたものであることを忘れず、御霊に誠を捧げ、とこしえに安かれとお祈り申し上げます」

献花となり、安倍総理大臣、衆・参議院議長、最高裁判所長官、日本遺族会会長、各都道府県遺族代表、一般戦災死没者遺族代表、原爆死没者遺族代表、青少年代表、衆・参議院副議長、各国務大臣、各政党代表、各団体代表者が黄色菊を捧げた。最後に加藤勝信厚生労働大臣が献花して式典を終えた。

黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下＝8月15日、東京都千代田区の日本武道館

## 灯

「互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです。『姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな』、そのほかどんな掟があっても、『隣人を自分のように愛しなさい』という言葉に要約されます。愛は隣人に悪を行いません。だから、愛は律法を全うするものです。更に、あなたがたは今がどんな時であるかを知っています。あなたがたが眠りから覚めるべき時が既に来ています。今や、わたしたちが信仰に入ったころよりも、救いは近づいているからです。夜は更け、日は近づいた。だから、闇の行いを脱ぎ捨てて光の武具を身に着けましょう。」（ローマの信徒への手紙13：8―12）

ユダヤの律法の核心は「創造主なる神を愛し、隣人を愛すること」。「律法を成就するために来た」と言われたイエスは、神をわが父と呼び、子として神を愛する道を人々に開いた。また、共通の親をもつ人類を兄弟姉妹として愛することを教えた。使徒パウロはイエスに従い「憎しみよりも愛」を燈火として世界に出帆した。（1）

## 社説

# 李登輝元総統と後藤新平

7月30日、97歳で亡くなった台湾の李登輝元総統が91歳で上梓した『李登輝より日本へ贈る言葉』（ウェッジ）で元総統は「日本に学んだ武士道の精神があったから、台湾は中国文化に呑み込まれず、1996年に実現した総統直接選挙まで民主化を進められた」と述べ、日本に「日本精神に目覚めよ」と呼びかけている。

22歳まで日本教育を受け、総統として台湾の民主化を成功させた哲人政治家の言葉、とりわけ、総統時代に中国と厳しく対峙した経験は日本にとって示唆に富んでいる。

### 「私の先生」

1994年、中国浙江省の千島湖（せんとうこ）で遊覧船が何者かに襲われ、放火により台湾人観光客24人が殺害された事件が起きた。当初、当局は火災事故だと発表したが、解放軍兵士が起こしたとの確証を得た李総統はただちに中国への渡航を禁止し、猛烈に抗議した。すると、中国政府はあわてて解放軍の元兵士3人を身代わりに逮捕し、死刑にした。

「中国は、相手が弱いと見るといじめ、強く出れば遠慮するので、日本は中国に対してはっきりものを言うべきだ」と李氏は言う。

台湾は半世紀に及ぶ日本統治下で、伝統的な農業社会から近代社会へと変貌した。それを指導したのが児玉源太郎や後藤新平、新渡戸稲造らで、国民教育から始め近代的な国民意識を形成した。そこに戦後、中国共産党に敗れた国民党が、新しい支配者としてやって来たのである。これを台湾では「犬が去って、豚が来た」と言う。役人や軍人の腐敗が横行し、抵抗する台湾人を弾圧したからだ。そんな中で起きた1947年の二・二八事件を、李氏は日本と中国との「文明の衝突」だとする。

台湾人は「日本精神」という言葉を好んで使う。日本統治時代に学び、純粋培養された、勇気、誠実、勤勉、奉公、責任感などの道徳で、李氏は新渡戸稲造にならい「武士道」だとする。

李氏が「私の先生」と尊敬する後藤新平は須賀川医学校に学んだ医者で、内務省衛生局に入り、官僚として病院・衛生に関する行政に従事した。明治28年、日清戦争の帰還兵に対する検疫業務を行う臨時陸軍検疫部事務官長として、広島・宇品港似島で検疫業務に従事した。その行政手腕の巧みさが上司の児玉源太郎の目にとまり、台湾総督になった児玉に台湾総督府民政長官として抜擢されたのである。

当時、マラリアなどの感染症が蔓延していた台湾で、後藤は徹底した調査を行った上で経済改革とインフラ建設を強引に進めた。現地を知悉し、状況に合わせた施政をしなければ大きな反発を招くからで、後藤は自ら「生物学の原則」に則った手法と語っている。その手法でアヘン対策も進め、コントロール化に成功した。アメリカから新渡戸稲造を招いたのは殖産のためで、新渡戸はサトウキビやサツマイモの普及と改良に大きな成果を残し、台湾農業の近代化に貢献した。

近代国民国家の条件は国民の命を守る政府があることで、感染症と食糧の二大分野で後藤はそれを築き、台湾近代化のインフラとしたのである。植民地経営というと上からの発想のようだが、民の側からの発想で行ったのが後藤の政治を成功させた。李登輝総統も同じ発想で台湾民主化を成し遂げたから、後藤を「私の先生」と呼ぶのである。

### 民からの発想

京都大学で農業経済を学んだ李氏の恩師が柏祐賢（すけかた）で、李氏は来日の折、再会を果たしている。新渡戸と同じ農業経済学の権威だった柏は、書斎に親鸞関連の本が並ぶ浄土真宗の信仰者だった。

当時、京大には親鸞寮があるほど真宗の学生が多く、国産初の電子顕微鏡の製造者で、日本ウイルス学会会長、京都大学ウイルス研究所所長、日本電子顕微鏡学会会長、国際電子顕微鏡学会連合総裁なども務めた鹿児島生まれの東昇（ひがしのぼる）も、親鸞寮での学びで、隠れ念仏の母を思い、念仏に目覚めている。

李氏は柏から学問とともに生き方も学んだのであろう。それは親鸞の説く民からの、生きとし生けるものからの発想で、それこそ東洋に生まれ育った民主主義の伝統である。自由な国が権威主義の国に圧倒されないよう、国民一人ひとりが支えたい。

# 相大二郎氏が名誉学園長に

## 『日本一小さな私立学校の大きなこころを育む教え』を上梓

### 一燈園燈影学園

相大二郎燈影学園名誉学園長

京都市山科区にある学校法人燈影学園は小・中・高校合わせて生徒数は約120人で、一学年10人ほどの「日本一小さな学校」。一燈園に生まれ育った相大二郎氏は同校で60年教鞭を執り、約40年、学園長を務め、今年4月から名誉学園長になった。近著『日本一小さな私立学校の大きなこころを育む教え』（PHPエディターズ・グループ）で、一燈園という生活共同体の価値観に支えられた教育が語られている。

同校は一燈園を創始した西田天香により、同人子弟の教育のため大正13年に創設された燈影塾が前身。昭和5年に小学部・幼稚部が設置され、昭和8年に小学部が燈影尋常小学校となり、昭和22年に新制中学校として認可され燈影学園中学校になった。昭和26年、学校法人燈影学園が認可され一燈園小学校・中学校と名称を改め、翌27年には高等部が一燈園高等学校として、昭和42年にいずみ幼稚園が認可されたことにより、幼稚園から高等学校までの一貫した学園が完成した。

昭和53年には日本ユネスコ協会連盟より国際理解教育活動最優秀賞を受賞、また一燈園は、長年のボランティア活動により平成5年にアルベルト・シュバイツァー賞を受賞した。相氏は平成23年、「教育者 文部科学大臣表彰」を受けている。

同校では教員は先生ではなくさん付け、著者は「大二郎さん」と呼ばれている。80歳の時、大二郎さんは小学1年の女児から、「こころといのちは、なにがちがうんですか。おしえてください」という手紙をもらう。それに、まだ的確に答えられないことに気づいた大二郎さんは、6年間、女児と一緒に考え続けた。

卒業式の答辞で彼女が語ったのは、「朝ごはんの時に生まれた一つのなぞに、大二郎さんは礼堂（禅堂）でことあるごとに話してくださいました。低学年の時は全く分かりませんでしたが、だんだんと深く考えられるようになり、卒業を前にこう考えました。『命』は私たちを生かすものであり、『心』は生きるために必要な考えや感情を創りだすものであるということです」。今の日本に、こんな教育をする学校があるのに驚かされる。

著者は、教育には「教わる・伝わる・気づく教育」があるという。学校としての内容を満たしながら、家庭的な学園生活を通して人としての大切なことが伝わり、一人ひとりが気づくことで、生きる力と知恵が身についていく。西田天香の教育論は、親からもらった子どもの光を拝み、輝かせる「拝育」。毎朝、15分間の瞑想で一日が始まり、昼食は黙食で、気づきの時間になる。

校長は論語からとった「行餘学文」。朝の瞑想で心を、作務で体を育てながら知識を学ぶ。リトミックや武道、日本舞踊などで体の動かし方を学び、ソロバンで右脳を鍛え、行願（きょうがん、トイレ掃除）などの奉仕活動でコミュニケーション力や社会性を磨いている。

学園長になった大二郎さんは、このままだとやがて生徒がいなくなることに気づき、平成元年から一般にも開放。以来、一燈園という価値観に基づく教育に賛同する人たちの子どもが通うようになった。イギリスから来た生徒たちもいて、今では、その子どもたちが一燈園を輝かせ、天香さんの思想を生かしている。

『日本一小さな私立学校の大きなこころを育む教え』

## 天地

天地子の自治会がお祀りしている八坂神社で8月29、30の両日、秋祭りを行った。去年までは20日ころの土日だったが、コシヒカリの刈り取りと重なるので、月末に延ばしてもらった。コロナのため参加者を限っての神事で、獅子舞も獅子頭を据え、音楽だけの奉納にする予定だったが、興が乗ってきたので若手が威勢よく舞った▼宗教法人として設立されたのは昭和28年だが、最古の祭の記録は明応3年7月27日とあり、市内の数社を掛け持ちしている宮司は、「日にちまでわかっているのは珍しい」と解説。明応3年は1495年で応仁の乱（1467～78）の後で、都はまだ荒廃していただろう▼八坂神社なのでご祭神は荒ぶる神のスサノオ。疫病を退治してくれる神だが、江戸時代の絵巻によると、退治するのではなく、鬼が悪さをしないように手形を押させていた。ウイズコロナの江戸版で、悪を退治しようとするのはやりすぎなのである▼万葉学者の上野誠奈良大学教授が「キリスト教は原罪主義だが、日本は原恩主義」と面白い表現をしていた。全てに感謝するところから始め、それぞれに居場所を与え、平和共存を図るのである。ハリウッド映画のようにエイリアンを撲滅することはない。彼らにも家族がいるのだから▼猛暑のおかげで盆明けに収穫したコシヒカリは豊作。新米のおいしさを堪能した。9月下旬にはヒノヒカリ、10月には酒米を刈り取る。テレワークで在宅がメーンとなり、地域の活動に専念できるのがありがたい。

本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号
■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
宗教新聞社
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
出雲井晶 著
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
（定価：本体2000円＋税）
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36 鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋霊 著
四六判158頁 定価1,365円（税込）
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな筈では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL:03-3811-5361 FAX:03-3815-5554

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15 ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com